

2026 年度 入学試験問題

教育学研究科

学校教育専攻（修士課程）

「教育学・教育心理学」

（2 期）

受験番号	氏 名

文教大学大学院

教育学 問題

【問1】 配点:各 10 点×2 問

以下の語句から二つを選び、それぞれ 100 字程度で説明しなさい。
(4 問中 2 問選択)

- | | |
|---------------|----------------|
| ・ 臨床教育学 | ・ 義務教育学校 |
| ・ GIGA スクール構想 | ・ フリードリヒ・フレーベル |

【問2】 配点:30 点

文部科学省は、「不登校に関する調査研究協力者会議報告書 ～今後の不登校児童生徒への学習機会と支援の在り方について～」(令和 4 年 6 月)を取りまとめた。この報告書によると「個々の不登校児童生徒の状況を適切に把握し、多様な支援を実施することが必要」として、「今後重点的に実施すべき施策の方向性」を提言している。ここに提言された方向性について、簡潔に説明しなさい。

(字数制限無し・罫線解答欄に記述)

教育心理学 問題

【問1】 配点:各 10 点×2 問

以下の語句から二つを選び、それぞれ 100 字程度で説明しなさい。

(4 問中 2 問選択)

- | | |
|------------------------|------------|
| ・ 発達課題 | ・ 絶対評価 |
| ・ 非指示的カウンセリング(来談者中心療法) | ・ ピグマリオン効果 |

【問2】 配点:30 点

学校などの教育場面においては、その教育効果を高めるために、グループで課題に取り組むことを求めることがある。グループで課題に取り組むときに生じる現象の 1 つとして、ラタネら(Latané et al., 1979)やリングルマン(Ringelmann, 1913)が実験的に示した「社会的手抜き(social loafing)」がある。この「社会的手抜き」について、はじめに具体例を用いて説明をし、その上で学校などの教育場面で「社会的手抜き」が生じないようにするための工夫を考えて記述しなさい。ただし、教師が作業前に『手を抜いてはいけません』のように口頭で指示することは含まないこととする。(200 字程度)